

週報



2016 年 年頭標語

創造主、天の父母様に似た、
真の愛を実践する
天一国の真の主人になろう！



世界平和統一家庭連合

FAMILY FEDERATION for WORLD PEACE and UNIFICATION
(旧 世界基督教統一神霊協会)

加賀家庭教会

教会長：石垣 重広

み言

「真のご父母様の精誠」

真の父母經 P674、P1153～1154

12 ワシントン大会をするその時は、六千年歴史の交差点が生じる瞬間であり、世界を懸けて天地の蕩滅が生じる瞬間です。息詰まる緊迫した時間が私たちの目の前に待っているというのです。それで、ワシントンDCを攻めるのです。これを世の中の人々は理解できません。お父様は命を懸けて行方です。私のためではありません。神様が勝利するためにするのです。人類が反対したことを完全に蕩滅復帰し、收拾して越えていくために、全世界が反対し、神様が協助しなくても、私は行くのです。お父様は、「私だけが残った」と思いながら、息詰まる時間に向かって越えていくというのです。かわいそうな人です。孤独な人です。神様が協助することもできません。ですから、イエス様が十字架で亡くなる時、「わたしのために泣くな。むしろ、あなたがた自身のため、また自分の子供たちのために泣くがよい」(ルカ 23/28)と言ったのです。私がやらなければ、皆さんの国を滅ぼし、皆さんの先祖と子孫を滅ぼすだけでなく、世界を滅ぼし、神様を滅ぼすことを知っているのです。お父様が61歳になるまでに、世界的路程を蕩滅する夢を実現できる最後の峠がワシントン大会です。これは、生きてゴルゴタを越える峠だということです。

釣りは精誠を尽くすためのもの

真の父母様は、2004年4月24日から85日間、麗水の海と貯水池で、昼夜なく釣りをしながら特別精誠を捧げられた。釣りには、墮落した人間を救おうとされる真の父母様の一念と精誠が込められている。特に、真の父母様が釣りをされるのは、釣り自体のためではなく、神様の摂理をかけて、最高の精誠を捧げるためであった。そして、真の父母様は、釣りをされながら精神を集中し、瞑想しながらみ旨の成就の

ための構想を練られた。このような過程を通して、心と体が一つになって神様と連結されることによって、霊的に深い対話も交わされた。その一方で、多くの経験を通して体得された釣りの要領を食口たちに教育し、伝授されたのである。

3 私たちが海に出て釣りをするのは、世の中を釣るということです。精誠を尽くすのです。皆さんも海を愛さなければなりません。精神を集中するには、釣りが一番早いのです。お父様が経験したことです。釣り竿を仕掛けて峰を眺めながら考えるのです。「あの峰が、天のみ前に精誠を尽くした人と焦点を合わせる、その日が来ることをどれほど期待しただろうか。それが正にこの時間である。ここに精神を集中し、この釣り竿を動かして万民の救いの道を開いていくのに同調することにより、お前たちも解放される」と考えます。そのように、万物を中心として考えるのです。飛んでいくカモメを見ても、話しかけながらそのような決意をするのです。「ぶれることのない中心、統一基準において摂理的なみ旨の終結を願う志の前に、お前たちが協助し、万物全体が真の父母の代わりに一つの標的の対象となって、精誠を尽くした代身者として動きなさい」と考えます。雨が降ろうと雪が降ろうと、関係ありません。暴風が吹き、雷が落ちて騒がしい中でも、釣りをします。それを忘れてしまおうというのです。そのような生活をします。昔、グロスターで「ニューホープ」に乗ってワシントン大会成功のために精誠を尽くしたときが忘れられません。「ニューホープ」の二階に座り、二十一日間、釣りをしても魚が一匹もかからなかったのですが、それでも心は一つです。私の思いではないのです。空中に浮かんでいるのです。みな深刻でした。そのようにしていたところ、神様が助けてくださり、奇跡が起きたのです。